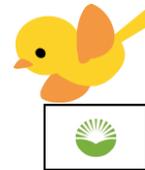


令和4年度 飯塚市グローバル人材育成研修事業

# 研修報告書



2023. 3. 24~2023. 3. 31



@Apple Park Visitor Center

## 飯塚市

## 目 次

研修生・引率者名簿	・・・	1
実施日程	・・・	2
現地研修行程	・・・	3
事前研修の記録	・・・	4
現地研修の記録	・・・	5
研修報告書	・・・	10

※研修生の学年については、令和5年3月31日時点のものです。

## 研修生・引率者名簿

### 【研修生20名】

	氏 名		学 年	研修班	備 考	
1	赤 松	華	あかまつ はな	高校1年生	1班	班 長
2	池 田	真 咲	いけだ まさき	高校1年生	2班	班 長
3	井 上	紗 那	いのうえ さな	中学2年生	1班	
4	梅 野	里 桜	うめの りお	中学3年生	1班	
5	岡 部	寛 音	おかべ かのん	高校1年生	3班	班 長
6	梶 原	悠 加	かじはら ゆうか	中学2年生	2班	
7	小 島	ありさ	こじま ありさ	中学2年生	3班	
8	酒 井	まどか	さかい まどか	中学3年生	3班	
9	新 川	徹 士	しんかわ てつし	中学3年生	4班	
10	須 堯	祐 貴	すぎょう ゆうき	中学3年生	2班	
11	田 邊	衣 織	たなべ いおり	中学3年生	2班	
12	田 村	奈 々	たむら なな	中学1年生	4班	
13	永 易	咲 希	ながやす さき	中学3年生	2班	
14	畑 瀬	由 衣	はたせ ゆい	中学2年生	4班	
15	原	天 舞	はら てんま	中学3年生	1班	
16	藤 崎	涼 菜	ふじさき すずな	中学2年生	1班	
17	松 永	樹 俐	まつなが じゅり	中学3年生	3班	
18	松 永	結 愛	まつなが ゆめ	高校1年生	4班	
19	宮 川	遍	みやかわ あまね	中学1年生	3班	
20	和 多	彩 夏	わだ あやか	高校2年生	4班	班 長

※50音順

### 【引率者5名】

	氏 名		所 属	役 割	
1	武 井	政 一	たけい まさかず	飯塚市教育委員会教育長	団 長
2	桑 原	ゆ か	くわばら ゆか	飯塚市立立岩小学校	生徒指導
3	仲 上	佳 男	なかがみ よしお	飯塚市立二瀬中学校	生徒指導
4	渡 邊	里 美	わたなべ さとみ	経済部国際政策課	事務局
5	井 上	卓	いのうえ すぐる	経済部国際政策課	事務局

## 実施日程

	期 日	場 所	備 考
選 考 会	12月11日(日)	市役所本庁舎	英語筆記、作文、 面接(日本語・英語)
選 考 会 (代 替)	12月24日(日)		
説 明 会 事前研修①	1月22日(日)		渡航説明会 自己紹介 ワークショップ
事前研修②	2月19日(日)		外国人と英会話研修 自己紹介動画撮影
最終説明会	3月5日(日)		渡航説明会
事前研修③	3月12日(日)		ホストファミリーとの オンライン交流
現 地 研 修	3月24日(金) ～ 3月31日(金)	アメリカ サニーバール市	ホームステイ シリコンバレーツアー 現地学生との交流 (学校登校)など
事後研修①	4月16日(日)	市役所本庁舎	研修の振り返り 報告会に向けての準備
事後研修②	4月30日(日)		
帰国報告会	5月14日(日)	イヅカコミュニティセンター	研修報告

## 現 地 研 修 行 程

日付	場 所	スケジュール
3月24日 (金)	市役所本庁舎 福岡空港 羽田空港	出発式 羽田空港へ出発 サンフランシスコ空港へ出発
	サンフランシスコ空港 サニーバール市	着後、サニーバール市へ移動 コミュニティセンターでウェルカムセレモニー ホストファミリーと対面
3月25日 (土)	サニーバール市	ホストファミリーと過ごす
3月26日 (日)	サニーバール市	
3月27日 (月)	サニーバール市近郊	シリコンバレーツアー <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラクテンUSA ラクネスト</li> <li>・スタンフォード大学</li> <li>・アップルパークビジターセンター</li> <li>・サニーバール歴史資料館</li> </ul>
3月28日 (火)	サニーバール市	学校登校
3月29日 (水)	サニーバール市	学校登校 フェアウェルBBQ
3月30日 (木)	サニーバール市 サンフランシスコ空港	サンフランシスコ空港へ 成田空港へ
3月31日 (金)	成田空港 羽田空港 福岡空港 市役所本庁舎	羽田空港へ 福岡空港へ 飯塚市へ 着後、帰国式

# 事前研修の記録

## 第1回事前研修 令和5年1月22日(日)



自己紹介



異文化理解ワークショップ

## 第2回事前研修 令和5年2月19日(日)



飯塚市の外国人の方と英会話の特訓



英語の表現活動

## 第3回事前研修 令和5年3月12日(日)



ホストファミリーとの初めての対面



ザニーバール市の学校の様子等を学習

# 現地研修の記録

出発式 令和5年3月24日(金)



市長あいさつ



研修生決意表明 池田真咲



ウェルカムセレモニー 令和5年3月24日(金)



ホストファミリーと対面



研修生自己紹介

## 一日研修 ～ シリコンバレーツアー 令和5年3月27日（月）

### RAKUTEN USA RakuNest



楽天アメリカ法人 Lead Principal 富永 生（しょう）氏によるセミナー

### スタンフォード大学



スタンフォード大学の学生によるキャンパスツアー

### アップルパーク・ビジターセンター



iPad の AR アプリを使ってアップル本社の建物を探索

## サニーバール歴史資料館



サニーバール市の歴史を学習



## 学校登校 令和5年3月28日(火)～29日(水)

### サニーバールミドルスクール



### コロンビアミドルスクール



### ホームステッドハイスクール



### フリーモントハイスクール



フェアウェルBBQ 令和5年3月29日(水)



研修生お礼の言葉 松永結夢



研修生お礼の言葉 小島ありさ



研修生お礼の言葉 梅野 里桜



研修生お礼の言葉 須堯 祐貴



研修生お礼の言葉 梶原 悠加



ホストファミリーとのお別れ 令和5年3月30日(木)



帰国式 令和5年3月31日(金)



団長あいさつ



研修生代表あいさつ 新川徹士



## Plan(計画)

私は、現地の学生と交流を深め、仲良くなりたいです。

その為に、出発までに英会話ブックをすみずみ読んで同年代がよく使うスラングを覚えたり流行っているものや、流行のファッションもチェックしておきたいです。サニールでは日本で覚えてきたことを生かして、積極的に英語を使って会話をして日本に帰国しても関係を続けられるようになりたいと思います。

## Do(実行)

積極的に話しかけるという目標があったのですが、ホストファミリーとは分からない単語やものがあれば自分から聞いたりすることができました。学生にも積極的に話すという目標がありましたが、移動教室が多いこともあり上手く会話が続きませんでした。しかし物理の授業の時には沢山話すことができました。

## Check(評価)

ホストファミリーに積極的に話しかけることができたのは、ホストマザーやファザーが私が英語を間違えたり、中々英語がでてこなかった時も間違いを直してくれたり、ゆっくり私の英語をきいてくれ安心して話すことができたからだと思います。学生と話せなかったのは話すスピードについていけなかったからだだと思います。リスニングを出発前にもっとしていればもっと会話することができたと思います。

## Action(改善)

私は今回の経験を活かして、これからの日常生活では家を出る時など1人で英語で話しながら動いたり、暇なときには海外のアニメや映画をみて早い英語を耳に慣れさせたりスムーズに英語ができるようにしたいです。また会話のレパートリーを増やすために、海外で流行っているものや人気なものなども調べていろいろなことに目を向けて行きたいと思います。

## 現地研修の思い出

現地研修では沢山の思い出ができました。私は最初英語が伝わるのか不安でとても緊張していましたが、ホストファミリーはハグをしてくれて温かく出迎えてくれてとても嬉しかったです。

現地研修では思い出に残ったことは沢山ありますが、その中でも思い出に残ったことは休みの日に皆で出かけたことです。1日目はモントレールの水族館に行きました。水族館の魚はまた日本とは全然違う種類の魚が沢山いてでかくて見ていてとても新鮮で面白かったです。また、ホストファザーが魚の読み方やどんな魚なのか教えてくれて新しいことが学べて嬉しかったです。エイを触るエリアがあり、初めて触ったのですが、ぬめぬめしていて意外で驚きました。2日目はサンフランシスコに行きました。まずゴールデンブリッジに行きました。想像より遥かに大きくて車で橋を通るときわくわくしました。サンフランシスコの街ではハードロックカフェにまず行きました。ハンバーガーを食べたのですが、今までで一番おいしかったです。

サンフランシスコは本当に自由でファッションも行動も個性豊かでした。例えば道路でいきなりバイクショーは始まったり、木に変装した人が通りすがりの人を驚かしたりなど面白かったです。サンフランシスコは初めて来たらしく皆で何が楽しかったか話しながら帰りました。ホストファミリーは私の辿々しい英語も最後まできいてくれたり、私がしたいことを言ったらすごく喜んでくれて一緒に過ごしていて本当に楽しかったです。

私はこの研修でとても大切な思い出ができ、もっと英語を勉強してもう一度ホストファミリーに会えるように頑張りたいと思いました。そしてもう一度カリフォルニアに行きたいです。



Babcock Family



高校 1 年生

いけだ まさき  
池田 真咲

## Plan(計画)

私のサニーベール市での目標は、何事にも積極的に行動することです。私は、よく人目を気にして行動をしてしまい、自分が挑戦したいことや、やってみたいことができなかつたことがあります。だからアメリカでは自分の殻を破り、人前で発表する機会があれば人前に立ち、自分を大きく成長させたいです。そのための第一歩として、私はリーダーの自覚を常に持ち、班や班員のために自らアクションをおこし、能動的に行動します。

## Do(実行)

私は何事も積極的に取り組むという目標について、出発式の代表あいさつに立候補し、皆の前で決意を述べたことにより、現地での研修では自信を持って様々なことに取り組みました。ホストシスターの友達に自分から話しかけ仲良くなることができました。また、2班のリーダーとして班員をまとめたり集合時に点呼をとったり、研修前よりも人をまとめてリーダーシップをとる力を身につけることができました。

## Check(評価)

私がプランを全て実行することができたのは、出発前からサニーベールについて調べたり、疑問点はメールでホストファミリーに質問していたからだと思います。例えば、お土産として持っていったお茶碗、茶筌、抹茶を説明するために分からない単語を調べておいたことです。もう一つは、遠慮せずにはまずは何でもホストファミリーに言うてみることです。日本では遠慮してしまうようなことでも勇気を出して伝えることで自分が食べてみたかったものや行ってみたかった所に行くことができました。

## Action(改善)

私は、サニーベールでの経験を活かして、もっと外国の方と関わりたいと考えました。そのためにはまずはユリスに参加し、沢山の活動を通して自分自身を成長させると共に、英語力をのばすために日々の勉強に励みます。また、私の将来の夢は国際線キャビンアテンダントです。この仕事は英語が話せることが最低条件なので、将来の夢に近づくためにも自分の英語力をもっと身につけます。そしていつかサニーベールのホストファミリーの元へ行き、成長した姿を見せます。

## 現地研修の思い出

私はサニーベールでの思い出が数えきれないほどあります。その中でも特に印象に残っていることは二つ紹介します。

まず一つ目は、学校登校です。私は、実際にバディーが通っている現地の高校に2日間行きました。日本の高校と違い、アメリカの高校ではランチの前にブランチがあったり、授業は全て生徒が移動したり、何もかも新鮮でとても刺激を受けました。私が一番驚いたのは、自由にスマホを扱いスナックを食べながら授業を受けても良いということです。日本の高校で同じことをすると、きっとふざけていると叱られると思います。見た目や印象ではなく実力で人を判断するアメリカだからこそできることなのかと思いました。

二つ目は、サプライズでNBAを見に連れて行ってくれたことです。私は、事前のホストファミリーとのメールでバスケットが好きでNBAが見たいと伝えていました。正直、私はNBAを見ることは難しいと思っていました。しかし、私がしたいと言っていたことは全て叶えるつもりだったよ、と私にサプライズでNBAの試合会場に連れて行ってくれました。嬉しさと感動が混ざって涙が出そうになりました。そして、ホストファミリーに愛されて幸せだなと強く思いました。

今回のアメリカでの経験を活かしつつ、もっと英語力を身につけ、いつかホストファミリーと再会した時に成長した姿を見せるように、これからも日々の勉強に励みます。



Jimenez Rivera Family



中学校 2年生

いのうえ

さな

井上 紗那

## Plan(計画)

ホームステイ先の家族や学校の人たちと積極的にコミュニケーションをとることに挑戦したいです。そのために、出発までに事前に配られた英会話本や単語帳を読んで、しっかりと発音をできるようにすることに取り組み、サニーベールではそれを生かして、自分から話しかけたり、質問をされたらしっかり答えられるようにし、スムーズに会話ができるようにしたいと思っています。

## Do(実行)

ホストファミリーや現地の学校の友達とたくさんコミュニケーションをとるという目標をたてていました。事前研修内でためらったりこわがったりすることなく、英語でコミュニケーションをとれたので自信をもって積極的に話せるようになりました。なのでホストファミリーともたくさん話せ、学校でもいろんな人と話すことのできたので多くの友達をつくることができました。

## Check(評価)

たくさんの人とコミュニケーションをすることができたのは、出発前に単語や文法の確認の他に、実際によくつかわれている会話のフレーズを暗記していったからだと思います。また、その他にも現地の人がよくつかっていたジェスチャーをまねしてつかってみたりしたことで楽しく会話することができたと思います。

## Action(改善)

私はこのアメリカでの研修で現地の人とコミュニケーションをとったり、たくさん場所に行ったことによって、もっと海外に興味をもち、アメリカのあのきれいな大学でいろんな考えをもっている人たちと学びたいという夢を見つけました。その夢を実現するためには、もっと勉強して、いろんなことを知る必要があるなと思いました。なのでこれから時間があれば進んで勉強をしていきたいと思っています。

## 現地研修の思い出

大きな英字の看板・バスの窓から見える風景はアメリカに本当に来たのだと実感した。サニーベールは緑が多く美しい町だった。そこで私を迎えてくれたファミリーは出会ってすぐ温かいハグをしてくれて、不安はどこかえといった。バスの中で私のことを歓迎してくれるのか？英語が通じるのか？不安だったが、すぐにその心配はどこかえと消えていった。

ホストファミリーと過ごした日々はどれもすばらしいものだった。サンフランシスコでは、まずゴールデンゲートブリッジの大きさと美しさにビックリした。歴史的な建物も多くあり、夢中になり一日で二万歩も歩いていた。ファミリーの皆さんとは日に日に会話も弾んだ。私の言葉をじっくりと聞いてくれ、理解を示してくれたので私も積極的に話すことができた。特に肉まんとクッキーを作った時は、作業を通して沢山の会話と笑顔を生まれて、とても楽しかった。勿論、味も good。

ファミリーと出かけた中で最も思い出深い事はNBA観戦だ。スタジアムのあの迫力と熱狂を今でも忘れることができない。ウォリアーズが逆転勝利した時の他の観客との一体感には本当に大興奮だった。ファミリーの皆が「サナはラッキーガールよ。」と何度も言ってくれて嬉しかった。

他にもスタンフォード大学に楽天本社、私もここで学びたい、帰ってきたいと思えた場所だった。今回のような素晴らしい機会を与えてくださった飯塚市には本当に感謝している。



Wu Family



## Plan(計画)

私は英語の本場に行きネイティブの発音やスピードにより近づけるようになりたいです。そのために、現地に行ったらとにかく色々な人としゃべりまくろうと思います。また、アメリカの文化や習慣を知りたいです。アメリカの空気を肌で感じて色々なことを吸収して日本に帰りたいです。そのために日本の良さや文化も勉強します。

## Do(実行)

友達を作る、いろんなことを吸収してくる、目標は達成しかしてません。学校で配る名刺の裏に自分で絵を描いたり、一言を書いたりしたことで会話のきっかけになりました。廊下を歩けば「りお！」と声をかけてくれたので目標達成です。また、学校、ホームステイ、日常、その全てにおいて気づきがたくさんありました。気付いたことは全てスマホにメモったので、これも目標達成です。

## Check(評価)

現地の人と英語で会話できたのは、今まで英語の勉強をしてきたからだと思います。しかし、本物の英語は、はやい、とにかく、はやかったです。聞き取るのも難しかったし、なかなか自分の頭で思っていることを英語に直すことは難しかったです。本物の英語を聞けるように、そして使える英語を話せるようになるような勉強が必要だと感じました。

## Action(改善)

「アメリカ」という大きな国で実際の生活を体験したり、学校に行ったり、色々な方からお話を伺ったことを活かして、これからは「挑戦」ということを大事にしたいと思いました。行動を起こす前に、心配したり、やめたりせず、突っ走っていきこうと思えました。そして、もっと外国人と細かい話をしたいな、自分の思っていることを上手く言葉にしたいなと思ったので、英語の勉強を頑張りたいです。

## 現地研修の思い出

「現地研修の思い出」というと、飛行機も飛行機からみたアメリカも、バスから見えた景色もホームステイも学校も友達も食べ物も約一週間、全てが思い出です。

その中でも心に残っているのが学校に行ったことです。「アメリカの高校に行く」という、今の自分の年齢、そしてこのプログラムに参加したからこそ体験できたというのが、すごく良かったです。色々な国の出身地の人がいるということ自体が日本にはあまり無いことで確かに見た目とかはちがっているけど、みんなが自分を持っているなど感じました。名刺を褒めてくれたり廊下ですれ違ったら挨拶してくれたり、本当にあたたかく受け入れてくれて嬉しかったです。

また、高校生でもカードを持てたり運転ができたりする、という文化の違いにも興味を持ちました。アメリカのこの文化いいなと思えたり、日本のこの文化は日本らしくて実はいいんだなと改めて思えたり両国の良さも知れました。

ホストファミリーも友達もお店の人だったり町でみかけた人だったりもみんなが優しくしてくれて人間のあたたかさを感じることができました。もっとみんなと会話したい！もっとアメリカや日本のことそして他の国の事も知りたい！って思いました。何だってできる！というパワーをもらったので、目標に向かって頑張ります！



Vu Family



### Plan(計画)

私は帰国後も交流できるような友達を探したいです。その理由は、おもしろい数学の問題や社会の課題について議論するとき、違う文化で生活する人の様々な視点がほしいから、一緒に高めあえるような人に会いたいからです。そのために出発前に人に「おもしろい」と思ってもらえるような人になるために努力したいです。また、積極的にコミュニケーションをとるためのネタを考えます。

### Do(実行)

帰国後も話せるような友達を作るという目標について、事前研修や課題の中で、自分についてまとめたり話せるネタを作ったりしていたが、現地のスピード感についていけず、うまく話の合う人を見つけることは難しかったです。しかし、日常会話を通して数名と仲良くなれたので、そこは評価したいです。

### Check(評価)

目標達成ができなかったのは、自分の英語力の不足により、現地の友人同士や家族間の会話を聞き取ることができず、議論の中に入ることができなかったからだと思います。研修の終盤では耳が慣れてきて、何を話しているにかを把握することが少しできたので、出発前にリスニングの音源を聞いておくべきだったと考えます。

### Action(改善)

今回の研修を通して、事前に調べることの大切さに気付きました。調べてまとめていなかったら、自己アピールすることは難しく、何も話せなかったと思います。一方で、現地の会話のスピードにはついていけなかったため、今後は日々の学習とともに、一日に最低10分は英語を聞く癖をつけます。また、自分の使える英語も増やしたいと思いました。

### 現地研修の思い出

今回の研修でいろんな人の優しさに触れました。

まず、受け入れてくれたホストファミリー。私が建築物に興味があると言うと、様々な建築物を見に連れていってくれました。日本とのスケールの違い、文化の違いを見れて、勉強になりました。また、英語が片言な私が言いたいことを丁寧に聞きとってくれました。最後までうまくコミュニケーションをとるのは難しかったですが、充実したホームステイにすることができました。

次に学校で話しかけてくれた友達。授業中に何をしたらいいのか分からずに困っていた私に話しかけてくれてありがとう。生徒の自主性やパソコンの活用など、日本とアメリカの教育方法の違いを学べて刺激を受けました。

そして、引率の方々、一緒に研修に行ったメンバー。色々のご心配をおかけしました。ありがとうございます。

将来は優しい人になりたいと思うと同時に社会の役に立つ人にもなりたいと感じました。また、アメリカの技術の発展している様子とその要因を考えると、次世代の育成が必要不可欠だと気づきました。それをうけ、教育関連の職につきたいという気持ちが強くなりつつあります。現地研修で学んだことをこれからの人生に活かしていきます。



Parthasarathy Family



中学校 2年生

かじはら ゆうか  
梶原 悠加

## Plan(計画)

ホームステイ先は前回、我家がホストファミリーとして受け入れた子の家庭である為、一からコミュニケーションをとる必要がなく、更に関係を深めたいと思います。そのために、出発までにメールのやり取りを沢山行い、サニーバールでは家族の一員として日常生活を楽しみ、自分の感想や意見を伝え、会話が盛り上がるようにしたいと思います。

## Do(実行)

ホストファミリーとコミュニケーションを沢山とるという目標について、飛行機の中で英語の映画を意識的に鑑賞し、現地では積極的に話題を出すように意識をしました。また、日本語をなるべく使わないように、一切親との連絡を取らなかったことや、翻訳機をなるべく使わないようにしたこと、自分の言葉で伝えたいことを伝えたり、よりコミュニケーションをとることが出来ました。

## Check(評価)

ホストファミリーと沢山コミュニケーションをとることができたのは、家族全員が揃う食事の時間に積極的に話しかけたことが主な理由だと思います。また、車での移動の時間に建物の並び方や景色の日本との違いや共通点を伝えたことや家に着いてホストファミリーにその日に行った場所の感想を話したこともコミュニケーションを沢山とることができた理由だと思います。

## Action(改善)

今回の研修で積極的にコミュニケーションをとるよう意識したことを活かして、これからは日常生活でも発表をする時に一番に手を挙げることや、何ごとも人に勧められて始めるのではなく自らその物事に取り組むように意識をしていきたいと思っています。

## 現地研修の思い出

今回のサニーバールでの研修では、ロッククライミングが一番思い出に残りました。始める前から楽しみでしたが、実際に体験し難易度を上げていくことで、より楽しさは増しました。初めて行った日に最後まで登りきることができなかったコースがありましたが、翌日に学校があったのでその日は諦めて帰りました。あまりにも楽しかったので、ホストマザーに「明日も行きたい。」と伝えると了承を得たので、その次の日のフェアウェルバーベキューの後に行きました。いくつかのコースを登った後に、前日の達成できなかったコースに挑戦しました。登っている途中で手が痛くなり、沢山汗もかいていたので諦めることも考えましたが「これを達成することで必ずいいことが起こる」という気持ちで登りきることができました。これを経験したことで、学校の社会の先生がいつもおっしゃっている「失敗の反対は成功ではなく挑戦しないことです。」という言葉の意味がよく分かりました。もし私が登っている途中で諦めていけば、それはそこで失敗として終わってしまいますが、そのコースに挑戦したことに意味があるのだと気がつきました。また、途中で諦めていなかったからこそ達成感を感じることができたのだと思います。このロッククライミングで経験したことを活かし、「挑戦すること」を大切にしたいと思っています。



Plewicka Family



## Plan(計画)

私はたくさんの人のお手伝いをして、たくさんのコミュニケーションをとりたいです。そのために、出発までに日本でも人のお手伝いをしたり、アメリカでのマナーや文化を学習しておきたいです。サニーベールではそれを生かして、失礼のないように礼儀正しく生活し、ホームステイ先でのお手伝いを頑張りたいと思います。

## Do(実行)

自分から積極的に話しかけ、家の手伝いをする。という目標について、事前研修内でその時に使える文を身につけたことにより、自信を持って話しかけることができました。しかし、自分的にはより多くの人と話したかったなと思いました。学校の友達にも少ししか話しかけることが出来ず、とても後悔しています。

## Check(評価)

自分から積極的に家の手伝いや学校の友達に話しかけることが出来たのは、出発前に話すときの例文をしっかりと確認していたことが主な理由だと思います。しかし、その他にも、一緒にアメリカに行く友達にあらためて自己紹介をしたり、話題を出したりしたことによって、コミュニケーションをとることができたと考えます。しかしより多くの友達とは話すためには、まだまだ自分から行くことに挑戦しなければいけないと感じました。

## Action(改善)

この研修で私は学校でたくさんの友達と話すごうことができました。このような経験を活かして、これから日常生活でも自分から積極的に話しかけるということを意識していきたいです。この研修で身につけた、コミュニケーション能力を活かし、学校ではより多くの人と友達になり、そして困っている人たちを手助けできるような存在となれるように頑張っていきたいです。

## 現地研修の思い出

私は今回のサニーベールの研修をとっても楽しむことができました。RAKUTEN・スタンフォード大学・アップル・サニーベール歴史資料館といった有名な場所に行くことができ、とても良い経験をさせていただきました。その中で私がとても印象に残ったことは二つあります。

一つ目は、ホームステイです。最初ホストファミリーと会った時、緊張気味だった私をあたたかく迎え入れてくれました。週末にはたくさんの場所に連れて行ってくれたり、たくさんご飯を食べさせてくれたりと、とても充実した週末を過ごすことができました。最終日のホストファミリーとお別れの日には涙が出てしまうほどホストファミリーとの時間はとても楽しかったです。私にたくさんの経験をさせてくれたホストファミリーには感謝しかありません。

二つ目は、RAKUTEN・アップルという大企業の見学です。日本の会社を見学したことはありませんが、とても進んでいるなど感じました。会社内にジムがあったり、言葉に表せないほどすごい食堂があったり、働きやすい環境になっていてすごいと思いました。また、学校でも課題は主に自分のPCで行っていて日本とは違うなど感じました。

今回の研修では、アメリカと日本の違いがたくさんあって驚きました。またアメリカなどの海外に行くと日本との違いをたくさん見つけていきたいと思いました。



Hockey Family



中学校 3年生

さかい  
酒井 まどか

## Plan(計画)

私は、ホームステイや学校で会話をする際にきちんと英語を聞き取り、内容を理解した上で自分の気持ちを伝えたいです。そのために、普段から英語にふれる機会を増やしたいと思います。そして、自分の気持ちを英語で表現するためにたくさん英単語を覚え、どんな時にその単語を使うのがベストかシュミレーションしておこうと思います。なぜならこの経験は貴重で私が将来、海外に留学する上で凄く役立つ経験だと考えているからです。

## Do(実行)

現地でたくさんの方と会話し、自分の気持ちを英語で表現することを目標としていました。現地ではたくさんの方と交流・会話することはできたものの、自分の気持ちを英語で表現するといった点に関しては、自分の実力不足（英語でどう言うのかわからない、ニュアンスが伝えられない）など、うまく会話することができませんでした。

## Check(評価)

自分の気持ちを英語で上手く表現できなかったのは自分の英単語の知識量が少なかったからだと思います。また、知っている単語でも上手く文章に組み込めなかったところもあると思います。日頃から英単語を覚える習慣をつけ、自ら英語にふれることがよりできれば上手く会話できたかなと思いました。

## Action(改善)

アメリカに行き、自分が思った以上に上手く会話できなかった経験を活かして、以前までは英文を読んでいる際に意味がわからない英単語があった場合、雰囲気の意味を考えて意味を調べなかったことが多かったですが、自分がサボった結果が上手く会話が出来ないことに繋がったと思うので、これからはわからない英単語はすぐに調べて自分の中にインプットするようにしたいと思います。

## 現地研修の思い出

まず初めに、私が一番アメリカに行き、驚いたことはアメリカにはたくさんの人種の方がいたことです。

前から知っていたことだったけれど、自分が思っている以上に色々な国籍の人がアメリカにはいて、だからこそアメリカは自由の国といった印象が強いんだなと感じました。

次に、私が一番嬉しかったことは、日本に帰国する際に、ホストファミリーがハグをしてくれて「またアメリカに来るなら、私達の家に来ていいよ！」と言ってくれたことです。私は、お世話になってばかりだったので、その言葉を聞きとても喜びを感じることができました。

最後に私が一番楽しかった出来事は、ホストファミリーの姉妹三人と一緒にスイッチでダンスをしたことです。言葉が無くても、みんな楽しそうに踊っていて私も楽しく踊ってダンスの順位で一喜一憂して・・・といった感じで凄く充実した時間を過ごすことができました。また、スタンフォード大学やアップル、楽天、歴史資料館など、さまざまな場所に訪れ貴重な体験をさせていただきました。



Azevedo Family





中学校 3年生

すぎょう ゆうき  
須堯 祐貴

## Plan(計画)

私は自分に身につけている英語で、どれだけ外国人とコミュニケーションをとれるのか挑戦してみたいです。僕は普段、塾で英語の勉強をしています。しかし実際に自分の英語が、英語を第一言語として使っている彼らに伝わるかわかりません。だから私はサニーベールに行くまでに、さらに英語を学んで、限りある時間を無駄にしないように自ら話かけていきたいです。

## Do(実行)

僕は現地研修前の報告書で「自分の英語力を外国人相手に試す」を目標に決めました。これを目標にしてホームステイ前に英語の語彙力を鍛えた事により、ホームステイ中はほとんど不自由なく家族や従業員、学校の生徒と会話することが出来ました。短い期間でしたがたくさんの人とつながる事が出来ました。英語を勉強していなければ、こんな素敵な体験は出来なかったと思っています。

## Check(評価)

僕はアメリカでの研修中にホストファミリーや学校の生徒達相手に翻訳機なしで自分の言いたい事を伝えられたのは、出発前に事前に塾などの場で、日本語禁止縛りをしていたからです。もちろん知らない英単語もたくさんあるので辞典などは使いましたが、ほとんどの場面で考えて発言するので、言葉がとても身についたと思います。

## Action(改善)

僕は将来、世界中の孤児やホームレスの人々を助けたり支援したりする活動に入りたいです。今夏の研修でアメリカのホームレスの方達がどのように過ごしているかなどをホストファミリーに教えてもらいました。また僕達はホームレスの方にお金をせがまれる体験をしました。彼の苦しそうな顔を見て心が苦しくなりました。よってこの経験を活かして出来る限り世界から不幸を取り除いていきたいと思っています。

## 現地研修の思い出

僕は今回の飯塚市のグローバル人材育成研修に参加しアメリカでたくさんの特別な体験をすることが出来ました。

3月24日に、僕を含む計20人の研修生で飯塚を立ちとても長い時間をかけて移動し、飯塚から丸一日をかけてアメリカのサンフランシスコ国際空港に着きました。今まで一番長い旅だったので、心も体も疲れきっていて初日は受け入れてくれたホストファミリーとあまり交流できませんでした。

しかし二日目はアメリカの有名な都市サンフランシスコまで行き、ゴールデンブリッジを観光し、三日目は自然が豊かなサンタクルーズという地域に行き、世界最大の木、セコイヤメスギを見ました。最初は英語も上手に喋れず気まずい関係だったけれども、この二日間で本当の家族のように親しくなりました。

四日目、五日目は現地の高校に行きホストファミリーのバディと授業を受けました。日本の学校とは少し違う部分もあったけど、ほとんど不自由なく、楽しく生活することが出来ました。

こんな貴重な体験をすることが出来たのは飯塚市のおかげなので、今回の研修での体験を活かして世界中で活躍する人間になり、飯塚にも恩返ししたいです。



Placidet Family



中学校 3年生

たなべ いおり  
田邊 衣織

## Plan(計画)

積極的にはなしかけに行くことに挑戦したいです。理由は、自分の英語力がどれだけネイティブの人に通用するか試したいからです。また、現地で友達をたくさん作りたいからです。そのために、出発までの期間でより多くの英語の会話表現を習得し、サニーベールでは円滑なコミュニケーションがとれるようになっておきたいと思っています。

## Do(実行)

サニーベールで友達を十人以上つくるという目標について、学校登校一日目は、緊張してうまく話すことが出来なかったけれど、二日目では少し慣れて自分から話しかけ、友達を作ることができました。しかし、十人以上友達はできましたが、交流時間や場面があまりなかったため、話せた人数が思っていたよりも少なかったです。

## Check(評価)

友達を十人以上作ることができたのは、出発前に英単語やフレーズを勉強していたことが主な理由だと思います。そのおかげで、円滑なコミュニケーションをとることができました。また、友達になった子たちが他の友達を紹介してくれたおかげで、十人という目標を達成できました。

## Action(改善)

この研修を通して、実際に海外で生活し、日本との違いを生でたくさん感じることができました。いろいろな方のお話を聞き、新しいことに挑戦したり、馬鹿にされたとしても自分の好きなことを一生懸命にすることが大切だと改めて感じました。これからも失敗を恐れずにたくさん新しいことに挑戦したいです。

## 現地研修の思い出

私が、研修で一番楽しかったことは「絵しりとり」です。サニーベールの子に「しりとり」を説明しようとしたとき、まず「しりとり」の英語を考えていましたが、先生が「アメリカにはしりとりはないよ」と言われました。後から調べてみるとアメリカでは普及してはいない遊びで、現地の子も珍しそうにしていました。一緒にした子は初めて会った子だったけれど、仲良くなることができました。学校で盛り上がったので、ホストシスターたちとも「絵しりとり」をしてみました。すると、本当に喜んでもらえて、仲間と深まったように感じました。「遊び」で仲良くない子とも仲良くなれるし、距離も縮まるので、改めてすごいなと感じました。

「しりとり」は面白いけれど、英語は最初の文字が「e」と「n」で終わることが多いので、普及しにくいんだなと思いました。

文化も生活スタイルもほとんどが日本と異なるのでとても面白かったし、すごく良い思い出になりました。



Ballantyne Family



中学校 1年生

たむら なな  
田村 奈々

## Plan(計画)

私はサニーベール市で、人と会話を続けることに挑戦したいです。そのために、出発までに話す練習に取り組み、サニーベールではそれを生かして学校のひとたちとたくさん会話をしたいと思います。また、サニーベールでは、アメリカの普通の日常生活を経験してみたいです。その理由は、アメリカとの日本の違いを見つけたいからです。その経験をより良いものにするために、出発までにアメリカの暮らしのことを調べていこうと思います。

## Do(実行)

現地の人と会話を続けるという目標について、事前研修内ではたくさんの外国人の方と話し、ひたすら新しい会話を続ける力を、家庭学習では、日常会話で使えるような単語をすぐに出す力を身につけたことにより、ホストファミリーとゆっくりと簡単な会話ができました。また、翻訳を使わないという目標にしていたのですが、現地では英語の意味が分からず翻訳していることがよくあったので、この目標は達成できませんでした。

## Check(評価)

現地の人と会話を続けることができたのは、出発前に外国人の方と会話の練習をしていたからだと思います。しかし、その他にも家庭学習や学校での英語を勉強していたことによって、現地の人と会話が続けられたんだと考えます。翻訳を使わないことができなかったのは、意味の分からない単語が多かったのと、耳がスピードにおいつけなかったからだだと思います。リスニングを出発前にしていれば、もう少し話せたと思います。

## Action(改善)

簡単な単語ならすぐに出てきたことを活かして、これからは日常生活でも思ったことを頭の中で発音していきたいです。また、インド系の方と一週間過ごした経験を活かして、異文化に興味を持ち、将来仕事をする時や今の学校で活躍できるよう文化や宗教についてももっと勉強をしたいです。

## 現地研修の思い出

最初、ウェルカムパーティーの時はたくさんのホストファミリーの方が歓迎してくれました。私のホストファミリーも、たくさんのお土産をくれてとても嬉しかったです。

土曜日には、様々な所へ観光に行きました。橋を2つ渡ったり、ダウンタウンにも行きました。高い橋から見える海や島はとても綺麗でした。

日曜日には、買い物や観光に行きました。最初に行ったミステリースポットは日本でも行ったことがなくて、とても楽しかったです。ネットフリックスの会社は、中には入りませんでしたがとても大きかったです。その後はコンピューター歴史博物館に行きました。ここでは、今のコンピューターが出来るまでの歴史を学びました。この日の最後には、家族へのお土産をたくさん買いました。

月曜日には、研修生全員で見学に行きました。この日、初めて食べ物の注文ができてとても楽しかったです。スタンフォード大学でもまたお土産を買いました。その後はアップルストアにも見学に行きました。

火曜日には、コロンビア中学校へ登校しました。コロンビア中学校の授業を受けたり、ご飯もいっしょに食べました。バディの子はとても優しく安心しました。同じ学年の子にもたくさん友達ができてうれしかったです。この日はホストファミリーと日本食のお店にも行きました。水曜日にも楽しく、この一週間であくさんの事が学べて良かったです。



Shirahatti Family



中学校 3年生

ながやす さき  
永易 咲希

## Plan(計画)

私は、現地でとにかくたくさんコミュニケーションをとることを頑張りたいです。話しかけられたときにしっかり答えることも大切ですが、自分から話しかけることもより大切だと思います。私はコミュニケーションをたくさんとれるほどの英語力はありません。しかし自分から積極的に話しかけることで、英語力を上げることにつながり、また、自分に自信がつくと思います。たくさんコミュニケーションをとれるように頑張ります。

## Do(実行)

自分から進んで話すことを目標にしています。自分の中で満足するほど目標は達成していませんが、少し達成することができたので、現地での成長を感じました。自分からたくさん話かけられるほどの英語力が無く、どうにか会話のやりとりを続けることができていた状態でした。

## Check(評価)

現地での会話のやりとりをすることができたのは、出発前の事前研修で外国の方とやりとりをする機会を設けて下さったからだと思います。それによって、受け答え方をなんとなくですがつかむことができました。また、自分が満足するほど話しかけられなかったのは、自分の英語力が足りなかったからです。出発前にたくさん勉強しておく必要があったと思います。

## Action(改善)

この研修を通して一番改善しようと思った点は、自分の英語力です。現地で、自分の英語力がどれほど無かったのかが分かり、すごく後悔しました。この経験をバネにして、自分の英語力をたくさん伸ばしていきます。そして、参考書に書かれてある英語だけではなく、生きた英語をたくさん学びたいなと思いました。

## 現地研修の思い出

私はこの現地研修を通して、数えきれない程のたくさん思い出を作ることができました。

現地研修での一番嬉しかったことは、私のホストファミリーと出会えたことです。サニーベールに着いてホストファミリーと初めて会話を交わした時は上手く話せず、今後一週間がすごく不安になりました。ウェルカムパーティーでの自己紹介の時に、私は、「たくさん思い出が作りたい。」と言いました。しかし、不安が大きすぎて、思い出が一つでも作れるのかと正直心配になりました。ウェルカムパーティーが終わってホストファミリーの家に向かう際に、車の中で家族が優しく話しかけてくれて、温かく感じ、本当に嬉しかったことを覚えています。二日目と三日目、家族は私をいろいろなところに連れて行ってくれました。たくさん話すにつれて、私の緊張もだんだんとほどけていき、会話をすることが私の楽しみになっていました。四日目と五日目は現地の学校に行き、そこでものすごく緊張していましたが、ホストファミリーのリナがいろいろと教えてくれて、楽しむことができました。学校に行けた二日間はすごく短く感じました。最終日はリナも私も涙するほど別れが辛く感じました。

本来であれば会うことのない私達がこの研修を通して出会えたことに本当に感謝しています。私のすごく大切な思い出です。



Van Laere Family



はたせ ゆい  
中学校 2年生

はたせ ゆい  
畑瀬 由衣

## Plan(計画)

私はこの研修で、初めての経験を多くすると思いますが、どんなことにも自分の意思を持って積極的に行動したり、自分の使える英語で自分からホストファミリーと会話する積極性を高めたいです。そのために、出発までに現地で使える英語の習得やサニーベールの情報収集などの準備、事前研修に積極的に取り組むなどの日本にいる時からの主体性を示して、サニーベールでの時間を有意義なものにしたいです。

## Do(実行)

コミュニケーション能力や主体性の向上という目標について、特に最初の数日間はおっさの英語が出ず、受け身の会話になってしまうことも多くありました。しかし、自分の使える英語の範囲内で自分から質問をしたり、話を広げたりしてみると、完璧な英語ではなくても相手が聞こうとしてくれて、ホストファミリーととても会話が盛り上がり、その話が元で連れて行ってくれた場所もあって、楽しい思い出を作ることができました。

## Check(評価)

家族の話、学校の話、部活の話、将来の夢の話など、ホストファミリーと本当にたくさん話をしました。楽しく会話ができただけ、それは決まって「自分から」発信したり会話を繋げたりしようとした時でした。事前研修でアメリカと日本の文化の違いについて習ったことに似ていますが、アメリカでは特に「～に行きたい!」「今日は～が楽しかった!」「～してくれてありがとう!」など何でも口に出すことが大事だと思いました。

## Action(改善)

何かが起こるのを待っているだけではダメ、アメリカの暮らしから学んだ積極性を忘れず、自分から積極的に行動する姿勢を見せたいです。また、現地で生の英語に触れて、もっと英語が話せたらもっといろんなことを聞いて、会話して、思い出をもっといっぱい作れたと思う時がたくさんあったので、本気で英語を勉強しようと思ったし、ネイティブとの会話など、なるべく生きた英語に触れる時間を多く取っていきたいです。

## 現地研修の思い出

最終日の朝、家の玄関先でホストシスターのキミとハグをした時、一週間の時を共に過ごしたこの家との、この家族との別れの時がもう来ていることを初めて実感した。その瞬間、少しうるっときたのを覚えている。しかしその後、バスの出発時間をホストファミリーと一緒に待つ時も、何度も手を振りながら空港に出発する時も、不思議と重度の悲しみに襲われることや大粒の涙がこぼれ落ちることは全くなかった。私もホストファミリーも、近い将来絶対再会するという、大げさに言う「確信」を持っていたからである。

私が就きたい職業は、北米の大学でしかその資格を取ることができないため、アメリカの大学に進学したいと考えている。ホストファミリーもこの夢をとていいねと言ってくれた。一緒に過ごした時間は毎日がとても濃密で、何が一番楽しかったか決められなぐらい楽しくて、一週間ずっと笑顔だったと思う。ホストファミリーが丁寧にわかりやすい英語を話してくれたおかげで生活しやすかった。しかし、もっと英語が話せたら、もっと会話ができただけかもしれない。志高い研修生の仲間達にも刺激をもらい、これから絶対英語をもっと話せるようになろうと決意した。

「次来るときは、サンフランシスコ空港まで迎えに来てあげるよ」とホストファザーに言われた。約四年後、大学に入る時に空港で笑顔で再会して、今度は何不自由なく英語で会話できるようになって成長した姿を見せたい。



Iwasaki Family



中学校 3年生

はら てんま  
原 天舞

## Plan(計画)

私は、たくさんの人と積極的にコミュニケーションをとることに挑戦したいです。そのために出発までに英会話練習を頑張りたいと思います。できるできないではなく、やるという志を持ち、サニーベール研修に挑みたいと思います。ベストを尽くし、充実したい一週間を過ごしたいと思います。

## Do(実行)

「積極的に英語を話す」を目標にしましたが、1日目と2日目は緊張からか、なかなかコミュニケーションがとれませんでした。しかし、3日目から目標を達成するために、たくさんお話したり、ゲームで遊んだりしました。また、サニーベール中学校では、たくさんの友達ができ、私にとって充実した楽しい7日間となりました。

## Check(評価)

積極的に会話ができたのは、出発前に海外の方と話す回転寿司していたことが主な理由の1つだと思います。また、出発前に今回共に搭乗してくださった仲上さんの話であったように「お金の出所」を意識して7日間を過ごしたからだとも私は思います。

## Action(改善)

今回の旅を通して、英語をもっともっと話せるようになりたいと思いました。なぜなら、英語を話せるだけで、世界中の人とつながることができました。共に生活できるからです。この思いを胸にこれからは日常生活でも英語を使い、将来国際関係の仕事で活躍できるよう努めたいと思います。

## 現地研修の思い出

私にとって初めての海外。不安が募る一方ですが、それ以上にホストファミリーの安心するような温かさを感じられました。1日目の夜ご飯はハンバーガー！アメリカのハンバーガーは大きいと分かっていましたが、想像以上に大きかったです。2日目は、ニモの散歩に行きました。ニモはとても元気で、すれ違った人に挨拶をしていました。またサンフランシスコの観光地を見たり、食べ物を食べたりしました。太平洋を見に行ったときにヤンが「太平洋を向こうに行くとは日本だよ。」と言われたときは、あたり前ですが世界はつながっているのだと思い、興味深かったです。3日目は会社巡りと遊園地に行きました。グーグルの会社は施設が広すぎて、自転車で移動するそうです。遊園地は日本とは全然怖さが違かったです。またこの日は、家でみそ汁を作りました。みんながおいしいと言ってくれたので良かったです。食後にはお菓子パーティーもして楽しかったです。サニーベール歴史資料館では、サニーベールの歴史について詳しく学ぶことができました。2日間の中学校生活は日本と全くシステムが違い驚きしかありませんでした。友達もたくさんでき、楽しい2日間となりました。

そして最後に、家でお別れパーティーをしました。アメリカの雰囲気を存分に味わえた7日間となりました。次は、自分の力でアメリカに行けるように努めていきたいと思えます。ホストファミリーが大好きです。



Yu Family



中学校 2年生

ふじさき すずな  
藤崎 涼菜

## Plan(計画)

私はやりたいことの中で2つ目標を立てました。1つ目は1人で買い物をすることで何か物を買うか、お店で注文したいです。だから、海外のマナーを知ることと自然と英語を出せる練習をして現地でもホストファミリーの話すところを見たいです。2つ目は友達をたくさん作ることです。学校の中で分からなかったことをすぐ聞ける友達を作るために、英語でニュースやアニメを見て聞く力をつけようと思います。

## Do(実行)

初め、話すことが好きな私は、自分の気持ちをはっきり表せないときにイライラしたことがありました。少しでもいろんな言葉に挑戦しようと思って、初めは翻訳を使い6歳の妹に発音を訂正されることもありましたが、アメリカの面白いところ、一日の気分、明日の予定、思ったことは何でも話しました。家族と別々の場所にいることもありましたが、なるべく誰かのところで話をしました。学校でも自分だけで会話することも挑戦しました。

## Check(評価)

私が目標にしていた、友達をたくさん作ることは、大いに達成出来ました。学校で、たくさんの人に話しかけ、名刺も50枚のほとんどを1日で配ったし、大切な友達をたくさん作れました。しかし、初日は何を話せばいいか分からなくなったので、飛行機で話題をたくさん考えておけばよかったなと思います。初めは翻訳が必要だったけど、徐々に必要なくなり、家族同士、早口で話していることも聞きとれるようになっていきました。

## Action(改善)

私はこの経験を活かして、これから外国人との交流をたくさんして、もっとたくさんの文化を知りたいと思いました。そして交流する時は、日本のいいところ、私の日常などを簡単に話せて、話題になることを話す前から考えてみたり、積極的にオープンに話したりできるようにしたいなと思いました。また、今回手に入れた、リアクションや対応の仕方は日ごろでも使ってみて絶対に忘れないようにしたいなと思います。

## 現地研修の思い出

現地研修を通して、私は日本とアメリカの違いをたくさん見つけました。

まず、人々の考え方や接し方について、日本に来ていたユーバルと再会を果たした日のウェルカムパーティーで、私たちは自己紹介をしました。日本人なら拍手だけですが、現地の人たちは立ち上がりて声を上げて盛り上げてくれます。また、お会計に行ったり、散歩をしていると初対面の人に話しかけられたりします。学校でもたくさんの人と話し、お菓子ももらったりもしました。現地の人と話するのが好きで、日本とは違う形の大きな優しさであたたかさをもっていました。

次に食生活について、アメリカで食べたクッキーは日本のものよりもずっとしょっぱくて甘かったです。他にも、ハンバーガーを1つ頼んだつもりが3つだったこともありました。BBQをした日には何十本ものソーセージを一気に焼いていました。

最後に、私が一番違いを感じたのは、学校、教育についてです。まず、先生が教室を移動することはないし、学校で上ぐつなんてはきません!!もちろん服も髪型もフリーです!

「質問は?」に対する答えがNOだったことはなかったと思います。しかもテストで電卓が使えるなんて!!その中でも、上下関係のなさが、私の驚いたポイントです。年下、年上、もはや先生まで立場を感じませんでした。

全てのことを通して、私の視野は大きく広がりました。



Shahar Family



中学校 3年生

まつなが じゅり  
松永 樹俐

## Plan(計画)

サニーベール市では、ホストファミリーのお手伝いに積極的に取り組み、ファミリーとの絆を深めたい。そのために、出発前から自分に何ができるか考え、それを実行したい。また、サニーベール市での学校登校の際には、自分から積極的に話しかけたいと思っているため、事前研修で幅広い人とコミュニケーションをとっていきたい。現地では、それをいかして友達を作りたいと思う。

## Do(実行)

現地研修前には、積極的に家族の手伝いをすることを目標にした。実際、ホストファミリーの家では、食洗器を使用していたり掃除を毎日していなかったりと自分たちがすることに限りがあった。しかし、その中でも、ものを所定の場所に片付けたり、自分の部屋はいつみられてもよい状態に整えたりと、あたり前のことを大切にしながら行動することができた。

## Check(評価)

自分にできることをきちんと行うことができたのは、自分が何をすべきか常に考え、それを見つけようと心がけることができたからだと思う。しかし、空いている時間に、自分ができることはないか質問することができなかったため、それを積極的に質問することにより、さらに充実した時間を過ごすことができるのではないかと考えた。また、出発前に様々な質問を考えておくことも必要だと感じた。

## Action(改善)

現地研修の中で日本とのちがいを最も感じたのは、学校登校だった。アメリカでの学校登校の経験を活かして、日本とアメリカの文化の差を見つけ、お互いの生活をより良くするための工夫を見つけていきたい。ホストファミリーや現地の方々とは英語で会話することができたという経験を活かして、この先も英語に興味を持ち、国際社会で通用するような能力を身につけたい。そのために、勉強とコミュニケーションを頑張りたい。

## 現地研修の思い出

現地研修前、私にとって「海外」という場所は不思議なものだった。不安と興味が一緒に存在しており、この事業に応募するか少し迷っていた。

しかし、現地研修で出会った景色・文化・人々は、その迷いを消してくれた。アメリカに住む家族の一員として生活していく中で、最高の思い出を作ることができた。

ホストファミリーはフランスからアメリカに来た家族だったため、アメリカだけではなく、フランスでの文化も教えてもらった。ホストフレンドとその妹とは、初日からたくさんのお話を話し、一緒にたくさん遊んだ。私が家のことで困っているとき、真っ先に手伝ってくれるのも二人だった。あたたかい家族と共に、本当に楽しい一週間を過ごすことができた。

研修期間中には様々な場所に行き、多くの経験をすることができた。アメリカのスーパーマーケットでは、店員さんが袋詰めまでしていた。カートの大きさはとても大きく、その点もアメリカンだなと感じた。アメリカのゲームセンターは、小銭を入れるのではなく、最初に買ったカードをスライドする形だった。

アメリカでの暮らしを体験することにより、日本との違いや両国の違いを見出すことができた。今後も英語に関心を持ち、グローバルな観点からものごとを見ることができよう、学校や地域社会での学びを深めてきたい。



Grisel Family



### Plan(計画)

私はたくさんの友達を作ることにチャレンジしたいです。そのために出発前までに日常会話の問題なくでき、自分の言いたいことが相手に伝わるように表現できる程度にまでコミュニケーション能力、単語力を上げます。サニールではそれを生かしてたくさんの方々とのコミュニケーションを取り、たくさんの現地の友達を作ります。また、現地のライフスタイルを肌で感じ、現地でしかできない経験をたくさんしたいと思います。

### Do(実行)

友達を沢山作るという目標について、研修前に名刺をたくさん作成した事、日本や自分の事について現地の人に色々話せるように沢山調べ、英語で自分に中にインプットしていた事が現地でたくさんの人と会話が出来、日本について紹介する事も出来、たくさんの友達ができた大きな一因だと感じます。また、たくさんのコミュニケーションを通して様々な文化や価値観に触れることが出来、自分の視野を広げることが出来ました。

### Check(評価)

たくさんのコミュニケーションが取れたのは出発前に頻りに英語を聞き、日常会話を一人で練習していた事が主な理由だと思います。また、話の話題として日本や自分の事について紹介し、現地の事について沢山質問したかったため、出発前に日本や現地について調べた情報をインプットしていた事も理由の一つだと感じます。何よりも現地で自分から会話をしに行く事を意識して行動出来た事が沢山の友達が出来た一番の理由だと感じます。

### Action(改善)

沢山の文化や価値観に触れた事や様々な人との交流が出来た事により一層他国の文化、英語や他の言語、国際交流に興味を持つ事が出来ました。そのため、将来は国際関係などの分野で活躍できるように英語や様々な国の歴史について勉強するだけでなく、国際交流のボランティアなど自ら参加しもっと自分の英語力、コミュニケーション能力を磨き、また留学する時に今回以上の学びが得られるように準備を進めようと思います。

### 現地研修の思い出

今回の研修では本当に沢山の学びがありましたが中でも印象的だった学びについて書こうと思います。まず一つ目は現地の高校に通って様々な刺激を受けた事についてです。私はアメリカの教育システムに興味があったため現地の高校に通える事は興味深く学びの多い2日間になりました。ホームステッド高校には様々な人種、国籍の人が自分のしたい事を全力でやっており、皆自分の人生について真剣に考え、叶えたい目標のために行動をしていました。私のホストシスターが行きたい大学や学びたい事のために日々課題や授業をこなし、将来について考える姿に凄く刺激を受けました。この2日間は私の考え方、価値観に大いに影響を与えたと感じています。次に2つ目は文化の交流を通して、お互いを理解する事が出来た事についてです。私が日本の文化をホストファミリーに共有したのと同じくらい沢山のインドやアメリカの文化を彼らから学びました。これは沢山のコミュニケーションが取れたからこそお互いの文化が出来たと感じています。この研修で分かった事はお互いの文化、価値観を理解するためにはまず対話が何よりも必要だという事です。沢山話をするほど新たな発見や気づきがありその度に相手のことを知り理解する事が出来ました。このような事はやはり現地に行き様々な人と交流する事を通して分かる事だと思います。この一週間は私にとって忘れられない大切な思い出になりました。



Vijayakar Family



## Plan(計画)

僕は英語でのコミュニケーションを取りたいです。そのために、出発までに日常生活で使う言葉を英語で言えるように努め、現地でそれを生かして皆で笑えたらなと思っています。また、現地の学校で日本との違いを発見したいです。なぜなら、非日常を体験することで見える世界が一転するからです。その経験をより良いものにするため出発までに日本の学校の特徴をまとめたいです。

## Do(実行)

現地研修では、文じゃなくてもいいから相手に伝えるという目標について、事前研修のうちに英単語をたくさん勉強し身につけたことにより、ホストファミリーやSMSの生徒たちと楽しく話すことができました。また、現地研修で自発的にしゃべることができなかつたと思います。質問に答えるだけで自らはなしかけたり、遊びに誘うこともうまできませんでした。

## Check(評価)

ホストファミリーやSMSの生徒たちと会話できたのは、出発前に毎日10単語ずつ暗記していたのが主な理由だと思います。また、その他にも家族や友達と日常的に英語で話すことによって、現地で楽しく過ごせたと考えます。自発的にしゃべることができなかつたのは、話題をあらかじめ作っていなかつたからだだと思います。

## Action(改善)

現地で慣れてない英語だけでもいいから相手に一生懸命伝えるという経験を活かして、これからは日常生活でも失敗してもいいからとにかくやってみるということをしていきたいです。また、現地で様々な人と出会った経験を活かして、国々の文化に興味を持ち、交流などをするとき相手に情報を的確に教えられるよう英語などの言語を学んでいきたいです。

## 現地研修の思い出

最初は不安な気持ちでいっぱいでした。でもそれを一気になくしてくれたのは、コミュニティーセンターで出迎えてくれたサニーベールの人たちでした。

日本人はシャイなので慣れるまでずっともしもじしますが、アメリカの人たちは違います。なぜなら、ホストファミリーに直面した時にハグをしてくれたり、たくさん話しかけてくれたからです。またサニーベールミドルスクールの生徒たちも皆「名刺交換しよう。」などと、とても初対面だと思えないくらい接してくれたからです。そのおかげで友達もたくさんでき、メールも交換しあったりしています。

アメリカは日本よりも治安が悪いと聞きます。でも日本にはない良さをたくさん持つてるので僕の価値観などは大きく変わりました。ホストファミリーと行ったカリフォルニア科学アカデミーは建物の大きさから日本と全く違うし、内容も初めてのことばかりでとてもおもしろかったです。

ホストファミリーと過ごした一週間は僕にとっての一生の思い出です。そして僕はスタンフォード大学に行きたいと思ったので、今回の研修で学んだ僕の短所を改善して、英語を勉強してまたアメリカに行ってホストファミリーと会いたいと思います。



**Broward Family**



## Plan(計画)

私は現地で伝統的なアメリカ料理をホストファミリーと一緒に作ったり、街中の様子から現地の文化や慣習を学びたいです。出発までに自分であらかじめ文化などを調べて知識をつけ、実際に現地でそれを体験することでより深い異文化交流ができたと思います。私は文化や言語にとっても興味があるので、沢山予習して現地に行き、生きた文化を感じて最大級の学びを吸収できるようにしたいと考えています。

## Do(実行)

現地で達成できたことは、現地の人の価値観や文化に触れ、日本と比較しながら学ぶことができたことです。街の様子や学校登校、ホストファミリーとの会話など、様々な場面で生きた文化を直接感じることができました。一方で、日本の文化を伝えるという点では不十分なところがあったと思います。今回は現地のことを吸収するので精一杯だったので、次に自分で訪れたときにはもっと文化の交流ができるよう努力したいと思います。

## Check(評価)

現地の生きた文化を沢山吸収できたのは、事前にある程度下調べしていたことと、積極的に周りの人に話しかけ現地のことを知ろうとしたことが主な理由だと思います。一方で日本の文化をあまり伝えられなかったのは、下調べはしたものの現地に着くとそれ以上に伝えたいことが増え、それに自分の英語力が追いつけなかったためだと考えます。今回の経験で、英語力はもちろん様々な文化に対する理解をもっと深めたいと感じました。

## Action(改善)

今回の研修を通して、語彙力と身の回りの物事にもっと関心を持ち自分なりの意見を組み立ててみることの重要性を強く感じました。語彙が少なくどうしても伝えたいことが薄くなってしまいう上、自分の意見を持っていないと深みのある会話があまりできないことに改めて気づかされました。今後は英語力を高めるのはもちろんアメリカ以外の様々な国や地域の文化や身の回りの事象にもっと関心を持ち、自分の価値観を深めてきたいです。

## 現地研修の思い出

「アメリカは自由の国」というのはよく聞くフレーズだと思います。日本で「自由」というと、何も束縛されていない状態を指すことが多いと思いますが、今回の研修を通して、アメリカでの「自由」とは日本の解釈に「ただし自分の行動の責任は自分でとること」という但し書きがプラスされたものであると感じました。例えば、ホストファミリーの家での食事や外食時には、自分で好きなものを選ぶのが普通でした。「この人がこれを食べているから被らないように…」などという配慮は必要ないのですが、「選んだもの＝この人の好みで反映されているもの」と捉えられるため、自分の意見をきちんと伝えないと誤解されてしまうのです。また、学校での授業では、席を立ったり友達と話したり飲食をしたりと、日本ではほとんどない自由度でした。驚いたことに「カフェデイ」という先生が食べ物や飲み物を用意してくれる授業までありました。しかし最低限の課題や提出物は期限までに出す必要があり、それもレベルの高いものでした。

このように「自由」という言葉一つでもニュアンスは異なる部分があり、自分とは違う価値観や文化に触れることの楽しさや面白さを目一杯感じられた一週間でした。帰り際にホストファミリーとした「絶対また来るからね」という約束を達成するためにも、英語力はもちろん自分の芯になる価値観をより深め高めたいと思えた本当に素敵な研修でした。



Berevoescu Family



